

令和3年度 各教科の評価・評定について

(1) 評価と材料

「評価」は生徒一人一人の学習活動に対して行うもので、毎日の授業の中で行っています。教科担当は評価をするために様々な材料を用います。例えば、授業態度や発言の様子、課題に対する取り組みの姿勢、作業の進捗状況、作品や提出物の状況、実技テスト、小テストなどがそうです。

(2) 観点別学習状況の評価

各教科には、学習指導要領で示された学習の「観点」があります。「観点」は各教科の学習目標に照らして定められたものであり、その内容には「知識・技能」と「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の項目があります。

教科担当者は、生徒一人一人の各観点の実現状況を、(1)であげた教科資料等を用いて、学期あるいは学年全体を通した評価（3年生の2学期の評価は、3年生の1学期・2学期を総合した評価）を行います。それが通知表に掲載される「**観点別学習状況の評価**」です。

(3) 「観点別学習状況の評価」の段階

本校では「観点別学習状況の評価」において

「知識・技能」、「思考・判断・表現」については「A+・A・B・C+・C」の5段階。

- 「A+」…その観点が「十分満足できると判断されるもののうち、特に程度の高いもの」(90%以上)
- 「A」…その観点が「十分満足できると判断されるもの」(80%以上90%未満)
- 「B」…その観点が「おおむね満足できると判断されるもの」(50%以上80%未満)
- 「C+」…その観点が「努力を要するとはんだんされるもの」(20%以上50%未満)
- 「C」…その観点が「一層努力を要すると判断されるもの」(20%未満)

「主体的に学習に取り組む態度」については「A・B・C」の3段階で表します。

- 「A」…その観点が「十分満足できると判断されるもの」(80%以上)
- 「B」…その観点が「おおむね満足できると判断されるもの」(50%以上80%未満)
- 「C」…その観点が「努力を要すると判断されるもの」(50%未満)

(4) 評定とその段階

「評定」は、学期あるいは学年全体を通した学習の状況を総括的に表したものです。

総括に当たっては、「観点別学習状況の評価」をもとにします。

評定は「5・4・3・2・1」の5段階で表します。5段階の示す意味は次の通りです。

- 「5」…「十分満足できると判断されるもののうち、特に程度の高いもの」
(観点別学習状況の評価を集約・総括した結果、達成率が90%以上のもの)
- 「4」…「十分満足できると判断されるもの」
(観点別学習状況の評価を集約・総括した結果、達成率が80%以上90%未満のもの)
- 「3」…「おおむね満足できると判断されるもの」
(観点別学習状況の評価を集約・総括した結果、達成率が50%以上80%未満のもの)
- 「2」…「努力を要すると判断されるもの」
(観点別学習状況の評価を集約・総括した結果、達成率が20%以上50%未満のもの)
- 「1」…「一層努力を要すると判断されるもの」
(観点別学習状況の評価を集約・総括した結果、達成率が20%未満のもの)

(5) 評定と観点別学習状況の評価の関係

	1	2	3	4	5					
0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100%
	C		C+			B		A	A+	
	C					B			A	

「観点別学習状況の評価」を総括して評定を算出するときに、重みづけを行っている教科は重みづけを加味し、次の換算表に従って評定を算出する。(教科の重みづけは、次項)

「知識・技能」
「思考・判断・表現」
【5段階】

A+	10
A	8
B	6
C+	3
C	1

「主体的に学習に取り組む態度」
【3段階】

A	10
B	6
C	3

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	重みづけを行った理由
数学	1	1	1	
理科	1	1	1	
音楽	1	1	1	
英語	1	1	1	
国語	1	1.4	1	※【国語 注1】
社会	1.4	1.4	1	※【社会 注1】
美術	1.4	1.4	1	※【美術 注1】
保健体育	1.4	1.4	1	※【保体 注1】
技術・家庭	1.4	1.4	1	※【技家 注1】

※【国語 注1】 思考力・判断力・表現力の観点には「話す・聞く」「書く」「読む」が含まれている。本校の国語科では、この3要素に重点を置いて指導している

※【社会 注1】 知識を基礎として、その知識を材料として思考・判断する教科の性質上2項目を重視した

※【美術 注1】 表現と鑑賞の内容を重視している。主体的に表現及び鑑賞の学習に取り組む態度は、ワークシートやアイデアスケッチ、作品、感想など「表現」及び「鑑賞」の活動の中で評価できる部分が多いので、この2観点を重視した

※【保体 注1】 授業中における、実技テストの結果を反映させるためこの2観点を重視した

※【技家 注1】 基礎的な技術や生活の自立に関する技術や、作品製作を通して課題解決する力が身につけていることを図るためこの2観点を重視した

評定の算出例

(数学)

観 点	評価	評価点	重みづけ
知識・技能	A+	10	1
思考・判断・表現	A	8	1
主体的に学習に取り組む態度	A	10	1

この場合の到達度は $(10 + 8 + 10) \div 30 \times 100 = 93.33\%$ となるので5となる。

(理科)

観 点	評価	評価点	重みづけ
知識・技能	A	8	1
思考・判断・表現	A	8	1
主体的に学習に取り組む態度	A	10	1

この場合の到達度は $(8 + 8 + 10) \div 30 \times 100 = 86.66\%$ となるので4となる。

(英語)

観 点	評価	評価点	重みづけ
知識・技能	A	8	1
思考・判断・表現	B	6	1
主体的に学習に取り組む態度	A	10	1

この場合の到達度は $(8 + 6 + 10) \div 30 \times 100 = 80\%$ となるので4となる。

(社会)

観 点	評価	評価点	重みづけ
知識・技能	A	8	1.4
思考・判断・表現	B	6	1.4
主体的に学習に取り組む態度	A	10	1

この場合の到達度は $(8 \times 1.4 + 6 \times 1.4 + 10) \div 38 \times 100 = 77.89\%$ となるので3となる。